

### 劣化度可視化し 危機感共有を

インフラメンテナンス九州  
フォーラムがパネル討論

産学官でつくるインフラ  
メンテナンス国民会議九州  
フォーラム（フォーラムリ  
ーダー・日野伸一九州大学  
名誉教授）は第7回ピッチ  
イベント「市町村長が考え  
るこれからのインフラメン  
テナンス」を12日に福岡市  
内で開いた。パネルディス



カッションが行われ、写  
真、メンテナンスの重要性  
を国民に理解してもらった

め、インフラの老朽化の状  
況を「見える化」し、危機  
感を共有してはどうかなど  
とする意見が出た。

パネルディスカッション  
のテーマは「地方自治体に  
おけるインフラメンテナン  
スの新たな展開について」。  
日野リーダーを進行役に、  
大西一史熊本市長と岩城一  
郎日本大学教授、玉川孝道  
道守九州会議副代表世話  
人、国土交通省総合政策局  
の廣瀬健二郎公共事業企画

調整課事業総括調整官がパ  
ネリストとして登壇した。

玉川氏は「メンテナン  
スの重大さを国民に理解させ  
るPRの仕方が非常に重  
要」と指摘。大西氏は国民  
と危機感を共有するため、  
インフラの老朽化の状況や  
対策の必要性を「見える化」  
することを提案した。

岩城氏は土木学会のイン  
フラ健康診断や市民が身近  
な橋の掃除を行う橋守活動  
といった取り組みを紹介し

た。廣瀬氏はハザードマッ  
プのように「（インフラの  
老朽化などに関する）デー  
タをどんどん開示し、いろ  
いろな人の手を借りるのが  
大事」などと話した。

イベントでは大西氏、金  
子健次福岡県柳川市長、小  
松政佐賀県武雄市長が各市  
のインフラメンテナンスの  
課題などを説明したほか、  
地方自治体のインフラメン  
テナンスの取り組み事例紹  
介などもあった。